

熊野川を語る会 議事骨子

開催日時 平成 17 年 11 月 26 日 (土) 14:00 ~ 16:30
 開催場所 紀宝町保健センター 活性化ホール
 出席者 担当委員 清岡委員 (司会) 瀧野委員 (進行役) 間瀬委員
 同席委員 江頭委員長、椎葉委員、中島委員、吉野委員
 意見発表者 谷上嘉一氏 (紀宝町) 荘司健氏 (紀宝町) 高橋徹夫氏 (鵜殿村) 花尻薫氏 (熊野市)

「熊野川を語る会」を開催し、熊野市、鵜殿村、紀宝町を代表する方々による熊野川、七里御浜との係りや地域の自然、歴史・文化、産業、地域振興策等についての意見発表、代表者および傍聴者との意見交換を行った。議事骨子は以下のようである。

1. 熊野川懇談会について

- ・ これまでの河川法の改正の流れ、熊野川懇談会の設立の主旨について説明が行われた。

2. 熊野川を語る会の主旨について

- ・ 熊野川流域で「語る会」が開催されるに至った経緯、懇談会の考え方について説明が行われた。

3. 自己紹介・意見交換

<主な意見>

(1) 地元代表者による意見発表

- ・ 自然との共生は重要で、人間の営利目的に合わせて自然の摂理を無視してはいけない。人、動物、植物はそれぞれ棲み分けがあり、一度この関係を侵すと復元は難しい。ダム放水による日常的な水位変動がアユの産卵にも影響している。河原がやせ、伏流水が減ることが浄化能力の低下、水質汚濁に繋がっている。魚の数が減り、外来魚の割合が増えた。砂利採取による下流への砂利の供給低下も水質汚濁の一因である。海水が遡上し、海の生物が川へ上ってきている。広葉樹が減少して保水力が低下している。道路建設で交通の便がよくなる反面、山を切って景観が悪化し、ゴミの投棄が増加した。【谷上氏】
- ・ 熊野川の水はエメラルドグリーンで綺麗と言われるが、昔と比べものにならないくらい濁っている。濁水はダムの影響なので管理者は努力して頂きたい。水質悪化には山林の状態が影響しているが、林業も衰退して余裕がない。十津川大水害当時は河床が低く、伊勢湾台風当時は河床が高かった。土砂収支のバランスが崩れて河床が下がったことは、治水的には喜ばしいことであり、砂州の砂利採取も検討すべきである。現在の流下ゴミは、ブルーシートや発泡スチロールが多い。ゴミを流さないために、行政による活動だけでなく、観光客を含め地域住民による働きかけが必要である。【荘司氏】
- ・ 世界遺産を活かした地域活性化に取り組んでいる。単なる川下りではなく、エコツーリズムを基本に熊野川の魅力を丸ごと体感できる活動をしている。現在の自然・文化・景観を壊すことなく、川の古道である熊野川の資源を後世に残すことが大切である。川舟による川下りや、古道を歩くことで、こころの癒しを感じることができる。安全面から水上交通の規制についても考える必要がある。若い世代には、熊野川の文化・歴史に関心を持って貰い、後継者として地域に残って貰うことが必要である。【高橋氏】
- ・ 自然が好きで植物を専門としている。ドロシモツケをはじめ熊野川の固有種は、ダムからの濁水により悪影響を受けている。ウォータージェットが通りやすいように河床を掘りすぎたため、水位が下がり水際の植物が枯れた。三重県側は砂利採取を自粛しているが、和歌山県側はまだ許可されている。このままでは、七里御浜はたった 30 年で失われてしまうとなる。砂浜では表層部の砂利層が無くなったため、アカウミガメが産卵できなくなった。熊野川の自然を取り戻すために、地域がもっと努力しなければならない。【花尻氏】

(2) 一般傍聴者も含む全体での意見交換

- ・ 活性化を目指す中で、下流においても筏下りを上手く活用する方法はないか。(吉野委員)
 トラック便になってすたれてしまった。筏下りや渡し船が昔あったという事は伝えていきたいが、復元までは考えていない。(高橋氏)

- ・去年急激に海岸が痩せたと聞いたが、どのような原因が考えられるか。(間瀬委員)
台風が東から来ると侵食が激しい。昨年の台風7号は東からだったので著しく浸食した、砂浜が流出するのではなくやや沖側の海底に砂が堆積している。直角に波が進むのが七里御浜の特徴であり、大きな波で海岸が痩せても小さな波で堆積砂が巻き上がり、元の海岸地形に戻る。(花尻氏)
- ・堆積により航路埋没は生じているのか。サンドバイパス工法は考えていないか。(間瀬委員)
サンドバイパス工法は効果があるが、膨大や予算がいる。(花尻氏)
- ・アカウミガメは、表面の砂利がないため産卵できないのか。(江頭委員長)
表面に砂利が無くなり小砂がほとんどであるため、串本や南部の海岸へ産卵場所を移動している。(花尻氏)
- ・熊野川は明治22年の大水害で河床が上がり、その後ダム開発や砂利採取等により河床が下がってきた。治水としては扱いやすい川だが、土砂の取り方には工夫が必要である。(江頭委員長)
- ・伏流水はなぜ少なくなったのか。(江頭委員長)
水質汚濁により砂利間に泥が詰まっている。昔は、雨が降って川がよどんでもわんこ(わんど)の中はきれいだったが、今はそんな状況は見られない。(谷上氏)
- ・昔は、川が広くて水みちが何筋もあったのか。今は土砂が流下しにくくなったのではないか。(江頭委員長)
反対に土砂の流下を抑えたり、下流の土砂を戻す方法が無いかという話も出ている。(谷上氏)
ヤナギやアシで河原が固定されて動かない。熊野川のかつての河床高を考慮して、どのくらいの高さまで戻すべきか検討する必要がある。(荘司氏)
- ・山を育てる事は川を育てる事に直結している。国がバックアップしながら全国的に緑を育てる動きが現れつつある。(谷上氏)
- ・三重県では環境創造事業により、保水力の強い広葉樹林を復元する取り組みが行われている。(荘司氏)
- ・航路維持のための掘削など、観光化に対する各々の観点での意見はないか。(椎葉委員)
航路維持のため、水が減ると最終的にはバックホウで掘削している。(荘司氏)
本流がどこかを考えながら川づくりを行う必要がある。(谷上氏)
昔に比べて水深が浅くなった。分水しているのも一因であると考えられる。(谷上氏)
自然を維持し、魚がとれる場所を確保したい。川下りだけでなく周辺での楽しみも体感して頂きたい。(高橋氏)
自然の流れに従うべきであり、地域の古老の意見も参考にして川づくりを考えるべきである。(花尻氏)
- ・NPO等がサクラの植樹を行っている。新宮、本宮間を桜街道にしたい。熊野川を下るとコンクリートが目立つが、これで世界遺産と言えるのか。道の駅に図書館的な要素を取り入れて、熊野川の資料を閲覧できるようにすればよい。(紀宝町 山口氏)
熊野川下流の森林ではなく、人工林をそこまで持ってくる事に不安を覚える。(江頭委員長)
- ・保津川では、山陰本線をトロッコに変更したり、国道は観光ルートとして線形改良を行った。現状の道路はトロッコ列車的にして欲しい。(大西氏)
- ・河口閉塞が激しく、アユやウナギの遡上が難しいと思う。七里御浜の人工リーフは、追跡調査を行い今後の糧にすべきである。(北山村 松山氏)
- ・砂利採取について県毎に見解が異なっている。理想的な川づくりの為にはどのように取り組むべきか。(紀宝町登立氏)
- ・水や砂は連続性が重要である。洪水で流れ、普段は流れないといった自然の摂理のもと、生物が生まれる。許容できる範囲で攪乱をコントロールしながら川づくりができれば最高である。(江頭委員長)
- ・熊野川全体では砂利が減少している。(谷上氏) ・昔は今より砂利が堆積していた。(荘司氏)